東北地方整備局　入札監視委員会（第一部会）　審議概要

開催日及び場所		平成２０年　２月２２日（金）　東北地方整備局　大会議室	
委員		部会長　遠藤　孝夫（東北学院大学工学部環境建設工学科教授） 部会長代理　内田　貴和（公認会計士・税理士） 委員　佐藤　英世（東北学院大学法科大学院法務研究科教授） 委員　宮原　育子（宮城大学事業構想学部事業計画学科教授）	
審議対象期間		平成１９年１０月　１日　～　平成１９年１２月３１日	
総抽出案件		総件数　１１件	
工事	抽出案件	５件	
	一般競争（ＷＴＯ対象）	１件	
	一般競争（ＷＴＯ対象外）	２件	
	工事希望型競争	０件	
	通常指名競争（一般土木）	０件	
	通常指名競争（一般土木以外）	１件	
	随意契約	１件	
建設コンサルタント業務等		４件	
役務・物品		２件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等		別添のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容		特になし	

抽 出 案 件 工 事 概 要 書

	工　事　名	入札・契約方式	工 事 場 所	上段：契約金額（単位：千円） 下段：入札経緯	応　募 業者数	指　名（参加） 業者数
1	一般国道４９号三和トンネル工事	一般競争 （ＷＴＯ対象）	福島県いわき市三和町渡戸～同市三和町中寺　地内	1,401,750 １回落札	２７社	２７社
2	一関遊水地黄金沢跡地処理工事	一般競争 （ＷＴＯ対象外）	岩手県一関市赤荻地内～奥州市衣川区漆野　地内	74,550 １回落札	８社	８社
3	北上川下流真野川水門設備修繕工事	一般競争 （ＷＴＯ対象外）	宮城県石巻市大瓜稲井　地内	29,400 ３回落札	２社	２社
4	秋田県警察学校（０７）射撃場機械設備緊急改修工事	指名競争	秋田県秋田市新屋勝平台９－２	48,195 １回落札	１３社	１３社
5	夏井地区迂回路設置作業	随意契約	岩手県久慈市夏井町字鳥谷第５地割　地内	18,795 －	－－－	１社

抽出案件建設コンサルタント等概要書

	業　務　名	入札・契約方式	履　行　場　所	上段：契約金額（単位：千円） 下段：入札経緯	応　募 業者数	指　名（参加） 業者数
6	管内鳥類生態等調査	随意契約 （公募プロポ）	新庄河川事務所　管内	110,250 －	１２社	１社
7	宮城山形県北地域の連携のあり方調査業務	随意契約 （標準プロポ）	仙台河川国道事務所　管内	9,975 －	５社	１社
8	白川ダム放流設備制御装置設計業務	指名競争	山形県西置賜郡飯豊町大字高峰字栗梨沢４２１５　白川ダム管理所	14,910 １回落札	－－－	１０社
9	技術審査・総合評価落札方式等支援業務	随意契約 （参加意思確認型）	東北地方整備局	15,960 －	０社	１社

抽出案件役務・物品概要書

	業　務　名	入札・契約方式	履　行　場　所	上段：契約金額 （単位：千円） 下段：入札経緯	応　募 業者数	指　名 （参加） 業者数
10	三春ダム広報企画業務	随意契約 （企画競争）	福島県田村郡三春町大字西方　地内	13,650 －	４社	１社
11	阿武隈川流域の水循環系健全化に資する調査・整理	随意契約 （参加意思確認型）	福島河川国道事務所　管内	3,443 －	０社	１社

東北地方整備局入札監視委員会
別添　　（第一部会第４回定例会議）審議概要

	質　問　等	回　答
	［指名停止関係］ 特になし	
	［談合情報等関係］ 調査の結果、開札取りやめとしているが、この工事は今後実施されるのか。	今年度については工期も取れないことから実施せず、翌年度改めて発注を検討することとしています。
	［再度入札における一位不動状況］ 特になし	
	［低入札価格調査制度調査対象工事］ 特になし	
1	［抽出事案についての審議］ 一般競争方式（ＷＴＯ対象） ［一般国道４９号三和トンネル工事］ 無効の会社の理由が入札ボンド不足ということだったが、具体的に教えてほしい。 大きい会社の割には基礎的なミスのような気がするが。 現在使用しているトンネルは急勾配で事故が多いので､新しいトンネルを作るということか。 新トンネルができた後、旧トンネルはどのように扱われるのか。 トンネルの両側を塞いで終わりか。 トンネルの具体的な利用方法として、どのようなものが考えられるか。 封鎖については､別工事として発注するのか。	入札保証金の額が、入札金額に対して約１２３百万円不足していたものです。 そのとおりだと思います。 トンネルが昭和３７年に作られてから４５年が経過していて老朽化し、現在はひび割れが多く、漏水もあるということで新しいトンネルを作るということです。 今のところ、トンネルの両側坑口を塞ぎ、使用しない予定です。 そうです。地元とも話をし、使いたいという要望があれば検討しますが、特になければトンネルの入り口を塞ぎます。 例えば､貯蔵庫に使う等できると思いますが、今のところそういう話はありません。 そのとおりです。

東北地方整備局入札監視委員会
別添　（第一部会第４回定例会議）審議概要

	質　問　等	回　答
2	一般競争方式（ＷＴＯ対象外） ［一関遊水地黄金沢跡地処理工事］ 入札金額が８社中７社は同じような金額で、落札業者のみが少し低い入札金額のように見えるが、同じようなことがよくあるのか。 ８社入札に参加している中で１社だけが入札価格が低いのは不思議だと感じるが。	 工事は､不陸整正が主で難しいものではなく、積算についても単純で、市販の資料で推測されることから、各社に差はほとんどないものとなっています。 この地区について、９月１６日から１７日にかけて大きな出水があり、相当規模の災害復旧が予想されます。現に年度末までに６０億程度の発注手続き中です。推測ではありますが、たくさん工事が発注されるなかで、今回の工事はそれほど大きな工事ではないので、受注意欲が大きい会社が１社しかなかったのかなと考えています。
3	一般競争方式（ＷＴＯ対象外） ［北上川下流真野川水門設備修繕工事］ 入札の２回目で辞退するというのは、どういう理由が考えられるか。 落札した会社の本社はどこにあるのか。 入札に参加しているのは２社だけということは、入札参加業者はわかっているのか。 第１回の入札価格と予定価格の差が大きいが、昨年入札して契約している会社は、経験があり差は小さくなると思われるのに、なぜこのような差が出たと思うか。	 推測ですが、昨年度も同様の工事を実施しており、今回入札に参加した業者はこの水門を製作した製造業者と昨年度修繕を実施した業者です。１回目の入札では予定価格と１，０００万円位開きがありましたので、積算の考え方を説明しました。本工事は点検整備と水密ゴムの交換が主な工事であり、点検の結果悪いものがあれば変更増で対応するという整理にしておりました。１社が２回目の入札を辞退した理由はわかりませんが、辞退した会社には、まだ価格差があったのかもしれません。 宮城県石巻市です。 一般競争入札ですので、落札者が決定するまで参加業者数は分からない仕組みとなっています。 整備部品の製作費について、当局と入札者の考え方が大きく違っておりました。点検整備の中身について、部品を交換するといった内容の積算について違ったのかなと考えております。その点は、２回目を入札する前に入札参加者に対して工事内容の説明をしておりますので、理解をしていただいたと考えています。

東北地方整備局入札監視委員会
別添　（第一部会第４回定例会議）審議概要

4	通常指名競争方式 ［秋田県警察学校（０７）射撃場機械設備緊急改修工事］ 最初に一般競争入札方式で実施したところ入札不調となったとあるが、具体的にどのような内容で入札不調になったのか。 通常指名競争入札方式に変えた後、予定価格は変わっていないのか。 この工事内容は通常の排気や換気設備の工事と変わらないのか。比較的単純な工事かそれとも何か特殊な工事なのか。	５社が入札しまして、１回目で予定価格を大きく超えていたことから、補足説明をして２回目の入札を行いましたが、２回目でも予定価格を僅かですが超えまして、入札不調となっております。なお、２回目は１社が辞退し、残りの４社が入札しています。 一般競争で発注した時点では、自動制御設備の工事内容が確定しておりませんでしたので、自動制御設備を含まず発注しておりましたが、２回目の時は設計内容が確定しましたので、それを追加したうえで通常指名競争入札で発注しており、予定価格も変更されています。 高性能なフィルターと記載しておりますが、通常の工事より若干換気設備がレベルアップしている仕様となっています。
5	随意契約方式 ［夏井地区迂回路設置作業］ 工事期間が９月７日からとなっていて、契約が１０月１日となっているが、このような災害の場合について、工事をすぐにしなければならないのだろうが、見積期間はどうなるのか。	早急に復旧する必要があり、請負者から施工を行うという承諾を得て施工しておりましたが、設計書の作成等に時間がかかったため、１０月１日契約となったものです。
6	随意契約方式（公募型プロポーザル方式） ［管内鳥類生態等調査］ 業務の性質上と考えるが、調査期間が長く、契約金額も大きくなっている。調査というのはお金に換算するのは難しいと思うが、このような調査の場合、積算金額はどのようにして計算しているのか。 この調査の結果は報告書という形でまとめられると思うが、そういうものについて公表されているのか。	調査には人が張り付きます。この業務ですと年間約１７００数十人を見込んでおります。現地調査に対する経費の積算は人件費が主です。 稀少種の調査なので、一般の方からそこに棲息していると分からないようにしなければいけません。報告書の書式については、場所を特定しないように、また、猛禽類の生態は分からなかった部分があるので、全国的にデータを集めるため、全国的に統一した書式で提出してもらいます。事務所単独の成果として、色々な方面にデータとして出します。

東北地方整備局入札監視委員会
別添　（第一部会第４回定例会議）審議概要

	質　問　等	回　答
	この業務の契約期間は３年弱だが、このような生態調査は１０年２０年のスパンでやらないと意味がないと思う。この地域のこの調査は、これが初めなのか、それとも前から継続していたものなのか。	生態等の調査については、平成７年から実施しております。今回初めて長期の契約をしておりますが､昨年までは単年度で契約しています。
	平成７年から単年度で契約していて、請負者はその都度変わったのか、それとも東北緑化環境保全（株）とずっと契約していたのか。	平成７年度から東北緑化環境保全（株）と契約しています。
	これは、委員会等で委員の意見を伺いながらレポートを作成しているのか。	委員会の委員に資料を提出し、意見を伺っています。
	調査の区域について、飛び地のような場所があるがどういう関係なのか。	砂防事業の範囲であることから、一緒に調査しています。
	今回の調査は基礎調査のような概要を知るための調査なのか、それともそれぞれに砂防の工事があり、それに必要な調査を実施しているというような調査なのか。	事業を進める前に概況を調査していまして、例えば巣があるということが分かれば工事着手する時点で詳細な調査を実施します。
7	随意契約方式（標準プロポーザル方式） ［宮城山形県北地域の連携のあり方調査業務］	
	成果品の報告はどのような形になるのか。	最終的には道路計画に係わる必要なものを取りまとめようとしていますが、本業務についてはその前段のもので、地域の潜在的なニーズ等の調査や発掘、連携の仕方をどの様にしたらよいか等、レポートとして提出させるものです。
	レポートの活用方法は。	道路施策策定までの間、委員会等で活用します。
	宮城県、山形県、地元自治体等との共同作業になると思われるが、その辺の連携はどうなっているのか。	現在は叩き台の無い状況なので、本業務の報告書が、叩き台として活用されることになります。
	この業務については、今回が初めての調査となるのか。	そうです。
	調査方法として、委員会へ諮ることになるのか。	今回は基礎的調査であるので、次年度以降になります。
	地形的調査は入っているのか。	本業務については文献調査の段階ですので、今後空中撮影や現地に入ることになります。

東北地方整備局入札監視委員会
別添　（第一部会第４回定例会議）審議概要

	質　問　等	回　答
8	通常指名競争方式（建設コンサルタント） ［白川ダム放流設備制御装置設計業務］ 総合的評価表の指名回数について、極端に分かれているが､この数字は何を表しているのか。 また、順位というのは。	 建設コンサルタントについては、多数の分野のコンサルタントがあり、大手コンサルタント会社については、多分野で指名を受けていることから、回数が多くなっています。 また、順位については、有資格業者名簿における順位です。
9	随意契約方式（参加意思確認型） ［技術審査・総合評価落札方式等支援業務］ この業務は、今年が初めてか、それとも継続されているのか。 この業務の結果は、具体的にどういう場面で使われているのか。 業務内容は高度で、かなりの知識・経験が必要な内容で、かなりレベルの高い人でできないと思われるが。	 総合評価方式を採用した平成１８年度から行っています。 技術提案の分析や評価結果のとりまとめについては、総合評価の加算点の配点や技術力評価の検討等、次の契約に向けての活用をするものです。技術審査等資料の作成については、発注に伴い、業者から提出された技術資料を審査するための資料を整理しているものです。 行政経験豊富な方が管理技術者等で業務全体を指導・監督しています。
10	随意契約方式（企画競争・役務） ［三春ダム広報企画業務］ １０年目のダムということだが、今回契約した業者は、以前にこういった地域連携の活動での実績はあるのか。 業務内容で、広報施設整備（既存展示物のリニューアル）とあるが、これは高度な改修になるのか。 業務内容の地域連携活動補助とは、具体的にどのような内容か。 履行期限が１０月２３日から３月１４日までということで、この間に色々なイベントがあると思うが。	 地域連携の活動実績については把握しておりませんが、広報企画業務について実績があることを確認しています。 大きなリニューアルを考えている訳ではありませんが、資料館は設置後１０年を経過しており、展示物の内容が古いもの（例えば、市町村合併に伴う市町村変更)となっていることから、時代に合った設備に再構築するものです。 今年完成１０周年ということもあり、流域５市町村を回りパネル展を行ったり、アンケートを配布し、集計してもらうといった内容です。 自然環境フォーラムについては、１１月下旬に終了しました。１０周年パネル展については２月上旬から始まり、現在実施中です。

	スケジュール表があって、この時期にはこういう様なものをやるというのが決まっているのか。	決まっています。
	企画競争評価表の的確性について、契約した会社が５点でそれ以外が０点となっているが、０点の会社は工夫が無かったということか。	契約した会社が、より具体性があったものであり、工夫が無いということではありません。
11	随意契約方式（参加意思確認型・役務） ［阿武隈川流域の水循環系健全化に資する調査・整理］	
	平成１７年から研究を続けているようだが、このテーマについてはどの位のスパンで結果を出すと考えているのか。	テーマ自体が非常に大きなテーマですので、最終的には１０年位のスパンになると思います。
	成果物を公表していく予定はあるのか。	福島大学の方でも、研究成果の発表会を毎年実施しています。整備局の中でも、河川技術懇談会という場で、その成果を発表し情報の共有化を図っています。
	自然再生プロジェクトは、元々福島大学が自発的に始めたものか。	元々福島大学では、もう少し広い、自然の共生・再生というテーマで研究をしていました。水循環については､私共がお願いしたものです。
	契約金額が安いと思われるが、適切な金額となっているのか。	今年度はデータ収集のみであり、この金額となっています。データの分析・解析が入ってくると、相当の金額になると思われます。

総括	本日の審議結果について、意見具申又は勧告事項は、特にありません。	